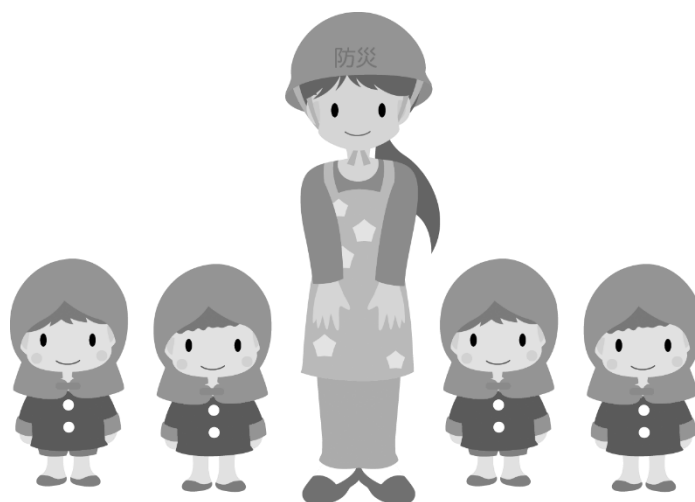


保育研修・講演会「そのとき、いのちを守る保育」

～東日本大震災に学ぶ～

参加者アンケート



【とき】平成 28 年 9 月 21 日（水） 19:00-20:30 （18:30 開場）

【ところ】 聞法会館 3 階研修室 1・2 京都市下京区堀川通花屋町上がる

【講演】小幡 幸拓氏（宮城県保育関係団体連絡会 事務局長 東日本大震災復興支援担当）

【主催】特定非営利活動法人 和（なごみ）

【協力】京都市小規模保育協議会・西本願寺

平成 28 年度京都府地域力再生プロジェクト支援事業

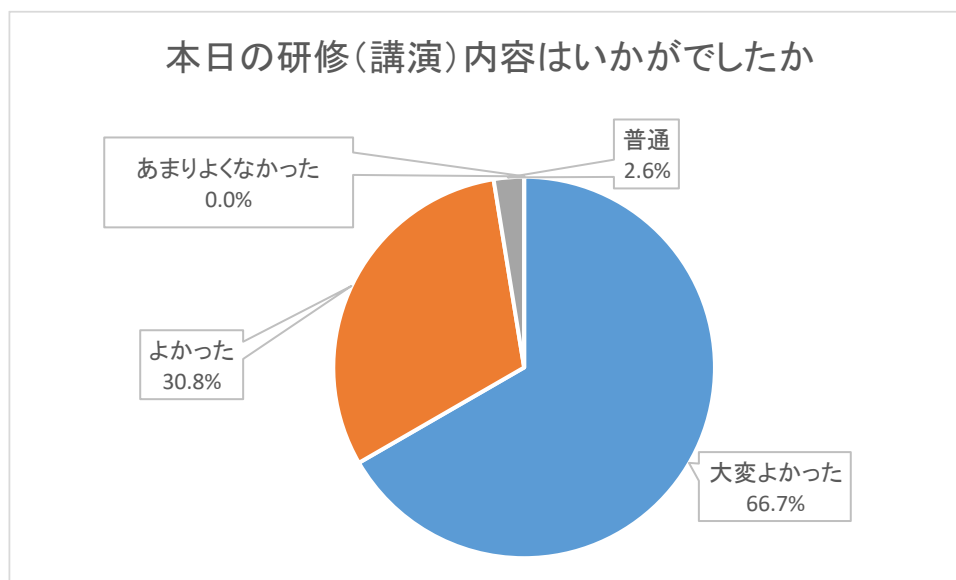
地域創生に取り組んでいます！



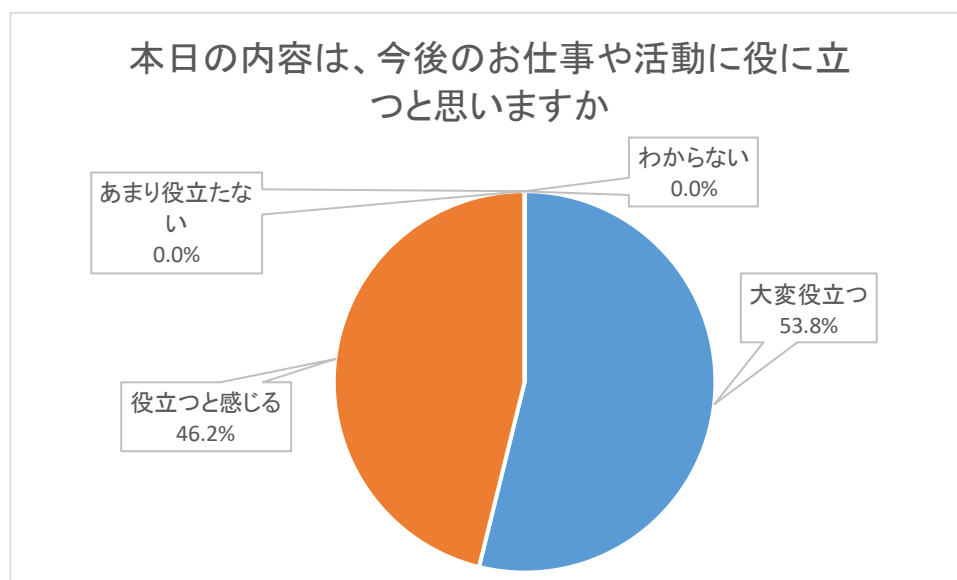
京都府地域力再生活動

○回答者数：38

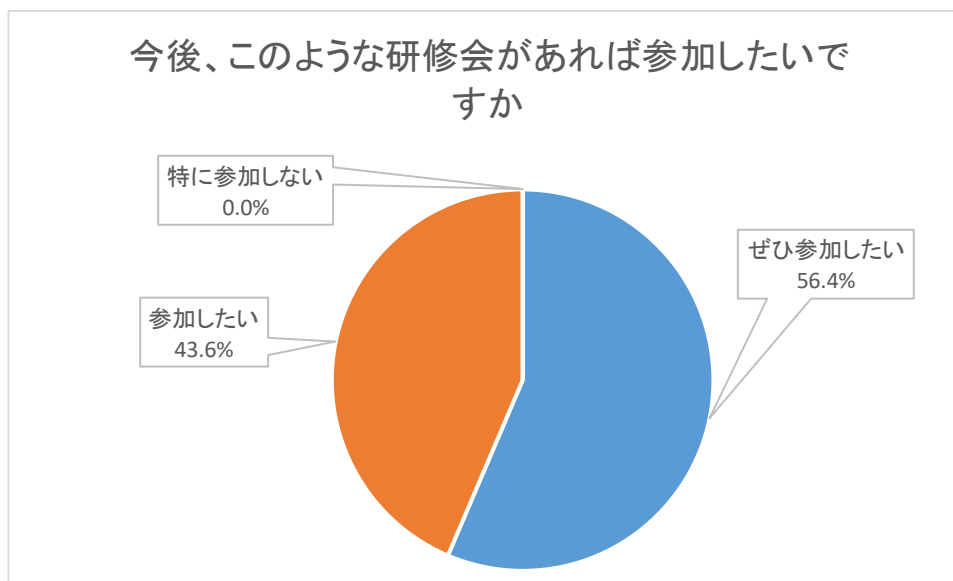
1 本日の研修（講演）内容はいかがでしたか。



2 研修（講演）内容は、今後のみなさまのお仕事や活動に役に立つと思いますか。



3 今後、このような研修会があれば、参加したいですか。(一つに〇)



4 今後、保育現場における防災に関してどのような研修があればよいと思いますか。

各施設における細かい指導を受けられる研修の場があれば良い。
各保育園の避難訓練の取り組みなどを紹介しあう など。
火災の避難訓練(京都の街中にある乳児ばかりの保育園なので 津波の心配は無いが、火災が心配。)小さい子どもを、いかに素早く 安全に避難させられるか、について。
具体的な備蓄品の持ち方。備蓄の仕方がわかるような研修
具体的に どういうものが どういう風に役立つのかを教えてください。
現実味が出るという点から、戦争の体験と同様、経験した・被災した本人が 皆に語ってくれる研修。(大きな震災を経験した事がない人が多いと思うので)
現場・現実・現況が知りたい。胸に響くので。
現場で保育している保育士、の意識に 強く伝わる研修。トップダウンではなく ボトムアップで対応対処について話し合える環境づくりが大切だと実感した。
参加型の訓練。
地震・救急
実際に 地震や火事が起こった時に どのように逃げるのが良いのか。待機する時と避難する基準など 安全に誘導する手順などで 気にかけるポイントなどがあれば知りたく、参考にしたい。

実際に どのような防災訓練を それぞれで実施されているのかを知りたい。保育士としての話を頂き、一方 子どもたちの様子、心のケア方法など お聞かせ頂けたらと思いました。
実践
状況の違う所での訓練・色々な想定の必要性を感じた。
定期的な研修を希望。実際、災害にあうことの少ない京都なので、話を聞くことで 震災の状況・保育士の働きが身にしみる。定期的に研修があると、経験していない人たちの心には、少しずつ響くと思う。
避難訓練の具体的なあり方。被災者の心のケア。
避難訓練の実演など
避難するとき(した時)に 苦労したこと、その時の 子どもや まわりの状況を もっと詳しく聞きたい。(自分が感じ取るために。)
保育園における避難訓練で大切なこと・具体的な方法・3歳未満児に対する対応。
保育中にして良かった事等 具体的に参考例で教えてほしい。全ての子どもが同様に被災した時に どうフォローしたらよいか? 支援が受け取れるような法制度について等。
保育の現場で子ども達を守られた先生方の話を聞きたい。(職員全員で聞きたい。)
経験のある方の話を聞きたい。(大きな災害の後、被災状況の中での保育現場が どのような役割を果たせるのか)
避難訓練に重要な事柄。災害後の子どものケア。
避難訓練について(避難袋の中身・経路 等)

5 本日の研修・講演会に関してご自由にご意見、感想をお書きください。

「自分の命を守りなさい」という言葉に とても心痛く感じた。目の前の子ども達、家族で 家で待つ子ども達、もしその場に立てば……。そうならない為の、行政の対応を求め、自分自身が動いていかねばならない感じた。
京都に住んでいると 震災に関して あまり危機感が無い。地震だけでなく 台風においても 大きな被害も無いので、本当に危機感無く生活している人が多いと感じている。もっと危機感を持って 生活しないといけない。又 細かな場面を想定して、皆で話し合い 確認しあっておかないといけないと思った。
京都は 災害の余りない場所で、幸いなことではあるが、反対に危機感が乏しい。災害によって、生活が変わるだけではなく 施設による格差や子どもの経験が奪われることを知った。小規模保育も施設的には弱い。どうすれば子どもの命を守れるのか 再度考えたい。
経験された方の話には やはり力が有る。このような機会を また頂きたい。
災害が起こった時は 避難訓練の大切さがわかるが、月日が立つとその意識が薄れていく。話を聞いて 又 気持ちを強く持ったと同時に 意識を持続して持っていきたいと思った。

<p>災害時に給食を作る時に、ガスが無くても 子どもたちに供給できる食べ物の確保・作れる献立を考えなければならぬ。</p>
<p>実際、現場を見ていないので、深くはわからないが、話をきいている内に、その時の大変さがよくわかった。地震が起きた時、自分自身が落ち着いて子どもを守ることが出来るのかと考えると 不安だ。普段の生活の中で 日々危機感をもって生活できるようにしていきたい。</p>
<p>実際に震災を受けた方の話を聞き、ひとつひとつの選択が命を守る事と感じた。大きな地震が起きた後、園をいつ 何時から 開園するか決定されても、担任として 40人の子どもの命を守れるのか、とても恐かったことを思い出す。時が経つにつれ 忘れてしまいつつある その時の気持ちや意識を 再度思い出された。いつ 何があるかわからない、何もしないのが当たり前になってはいけない意識を持つことが大切だ。</p>
<p>実際に体験された方の話を聞くことが出来、よかった。21年前の阪神大震災で 大阪で経験した朝のことを思い出しながら聞いていた。散歩先での避難場所の記録の話は とても参考になった。</p>
<p>質問に対して すごく適切な返答があり 素晴らしかった。話もとても耳に入りやすかった。現場の意見が聞けてとても良かった。</p>
<p>自分が考えている以上の、もっと上のことを考えて想像するのが必要だと思った。忘れない内に防災の準備をしておきたい。</p>
<p>自分の身に置き換えたときに 保育士として何が出来るか考えた。避難訓練は行っているが 具体的なイメージをこれまで以上にもっていきたい。</p>
<p>震災時 実際の保育の現場で どのようにされていたかを初めて聞き、5年半たった今も 保育の現場が落ち着いていない事、許可・公立などでの支援の違いなど、初めて知ることばかりだった。</p>
<p>震災直後には、自分たちの園がある地域に もしも・・・が起きたらと 想定してみても、実際に現地にも伺ってみたことがあり、話も聞いてみた。その話をもとに、避難マップ・備蓄品等 考えられる事は準備してきたが、避難訓練も園内にとどまっている。今回 話を聞いて 普段より 広域避難所への避難等 もっと 具体的に訓練すべきと感じた。</p>
<p>震災について様々な話が聞けて良かった。自分の命を守る、そのために出来る事を考えていきたいと思う。</p>
<p>震災についての当事者の方の話を 直接聞くことが出来て、防災に対する意識が高まり 本当に良かった。頭ではわかっているが、想像力をさらに働かせて 避難訓練をやり、最大限のパターンを確認し、備蓄品の確保等 早急に取りかかりたい。本当にためになる話だった。</p>
<p>震災を経験された方から話を聞くのは 初めてで、この機会に感謝している。毎月行っている避難訓練の内容の見直しや、避難先の安全を確認しておく事も大切だと思った。(例えば、公園(大規模)など、散歩中に災害に遭遇した時の避難場所を 決めておくことも大切、等 改めて考えさせられた。内容の濃さを実感するので精一杯で質問出来なかったが、“安全を守る保育の基準”を読みたい。</p>
<p>誰にでも災害に遭う可能性はあるが、実際に自分が被災するという意識は薄い。まずは生きるための物資・そして精神面のフォローが素早く出来る為の方法・団体を育てていかないといけないと感じる。</p>

<p>月日が経ち、震災についても忘れかけていたりする自分がある。改めて実際に起きた事、そして同じ日本の中でまだ こうして、震災に向かい合いながら、懸命に保育現場で 子どもの命と向き合っている現状がある事を 改めて感じた。いつ どんな状況で 自分たちが そういう状況になるかもしれないので、日頃の訓練の大切さ、出来るところから 行っていく事・実行していく事が大切だと思った。</p>
<p>常日頃から思っけていても取り組めていない事が沢山ある。出来ることから 備えていきたい。</p>
<p>とても勉強になった。想像では足りないだろうが、自分の所の避難訓練も見直したい。</p>
<p>とても良い話が聞けた。今後の保育に役立てていきたい。</p>
<p>生の声を聞いて良かった。自分の園のことを思いうかべながら聞いていた。すぐに活かされる話も有ったので、職員と共有していきたい。各団体(保育所・園・認可・認可外)により 差が有る事に腹立ちを感じた。命に対する差はないと思う。(団体は)小さいけれど 声をあげる大切さを学んだ。</p>
<p>東日本大震災で被災された方の話を直接聞くのは初めてで、一言一言が胸にささり 感じる事がたくさん有った。日頃の備えの大切さを考え・行政への働きかけをする等、出来る事を積み重ねていきたいと思う。</p>
<p>本気で取り組む避難訓練を 改めて考えさせられた。非常用持ち出し袋の中身を再確認を行う。災害に対しての甘い考えを職員みんなで考え直したい。</p>
<p>まず近隣との協力体制、職員間の意志一致、耐震について、しっかりと確認したい。</p>
<p>今回初めて 震災経験者の方の話を聞いた。正直、とても大変な事が起きているとわかっているけど、その場に住んでいないと、現実味がなかった。そんな中、「着ているもの・車・お金、なんて全て意味がない」という言葉が、とても衝撃だった。改めて この震災のこわさを感じた。又、保育に関する話で、私達が守るべき命の大切さ、そしてその大変さも感じた。今後、今日の研修を活かし 日々の保育をしていきたい。</p>
<p>震災時の 子ども対保育士の人数の話に 考えさせられた。「震災時に 1～2歳児を守るには 保育士一人で4人がやっと(通常だと6人)」という話から、園にも○対○という考えを改める運動も必要になってくると思った。被災現状・現場には行っていないが、改めて 3. 11を思い出し 日々 子ども達への対応を考えていきたい。</p>

発行年月：2017年3月

発行：特定非営利活動法人 和

〒600-8833 京都市下京区七条大宮西入西酢屋町10

TEL 075-353-5181

URL <http://www.fucco-nagomi.com/>